

日本更生保護学会主催

第2回更生保護学研修会

—先人の知見と先端の手法を学ぶ—

本学会は、更生保護に携わる者の職能集団としての機能を合わせ持つことを目指しています。実践現場の基幹は、多職種多機関連携であり、学会員の構成とも一致しており、その特質を最大限に活かして更生保護学の確立に寄与する「更生保護学研修会」を企画しました。先人の知見を土台として先端の理論と実際を学ぶ機会となることを目的に、第2回の講師は、大脇堅義・有野雄大保護観察官の若手登場です。

- * 日 時: 令和元年12月1日(日)午後1時30分～5時(受付:午後1時～)
- * 場 所: 国士舘大学 世田谷キャンパス(34A208教室)
※日本更生保護学会第8回大会終了後開催
- * 参加資格: 当学会会員
※定員内であれば非会員の更生保護従事者も参加可
- * 定 員: 40名程度の先着順
※6名ずつ6班程度での演習予定
- * 参加費: 大会参加者は無料
※資料代をいただく可能性あり
- * 申込方法: 参加申込書を FAX 又はメールで送付
FAX: 03-3356-7610 / E-mail: gakkaijimu@kouseihogo-net.jp

<研修会のテーマ・目的>

「更生保護における動機づけ面接—その基幹と手技を学ぶ—」

動機づけ面接は、動機づけの乏しい支援対象者を特質とする犯罪者処遇において、その有用性が早くから着目され、特に、性犯罪、薬物、飲酒運転、ドメスティック・バイオレンスといった問題行動への適用が展開されています。

矯正施設の性犯罪・性非行に対する指導においていち早く動機づけ面接の要素が取り入れられ、更生保護においても、薬物事犯者への処遇などで、動機づけ面接の必要性が認められています。法務総合研究所の講義科目としても、取り上げられていますが、現場での幅広い適用については、外部講師によるものだけでは限界があります。

今回は、動機づけ面接に魅了され、その国際的なトレーナーネットワークのメンバーに加わった若手保護観察官から、“現場で役立つ”新しくも馴染みある面談のスタイルを学ぶ機会を設けました。保護観察臨床の新潮流に触れていただければ幸いです。

<企画・司会>

生島 浩 (福島大学人間発達文化学類教授・本学会副会長)

<研修講師>

- ・大脇 堅儀 (札幌保護観察所室蘭駐在官事務所 保護観察官)
- ・有野 雄大 (さいたま保護観察所 保護観察官)

<スケジュール(予定)>

- ・13:30～15:00 動機づけ面接の基幹、その保護観察場面での適用課題
- ・15:15～17:00 動機づけ面接の基本スタイルを学ぶ (班別演習)